

兵庫の林業

褒章・各賞受賞者の紹介 / 兵庫県立森林大学校の学生確保
 たかさごの森づくり活動「たかたか連携」—森林環境税を活用した県内初の市町間連携—



もくじ

新年のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 知事新春メッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 褒章・県林業受賞者の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 ひょうご里山フェスタ2025・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 ひょうご森づくり活動受賞者の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 新たな指導林家・青年林業士の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 兵庫県林業労働賞受賞者の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 新たな兵庫県林業士の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 森林環境税を活用した市町間連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 (技術シリーズ) 左右心去り平角の乾燥・7〜8
 (普及だより) 丹波の里山利用活性化の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 県産広葉樹苗木生産者育成研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 木材市況・住宅着工数の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 森林ボランティア・緑化推進大会の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 林業架線作業技術研修の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
 山火事注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 県立森林大学校の学生確保・(裏表紙)
 題字・ 兵庫県知事 齊藤元彦氏

表紙の写真

—高砂市・多可町との森づくり市町
 間連携「たかたか連携」の協定書締結式
 高砂市の森林環境税と税を活用した
 森づくり活動が、多可町の森林で始ま
 りました。譲与税を活用した市町間連
 携としては、県内初の取組です。
 高砂市長(左)、多可町長(中央)、北
 はりま森林組合長(右)の三者で協定書
 締結が行われ、その後、高砂市の子供
 たちによる植樹会も行われました。
 この森づくり活動は、北はりま森林
 組合が活動内容の調整等を担い、高砂
 市が目指す「高砂市ゼロカーボンシテ
 イ宣言」に基づき、森林による炭素吸
 収を目的とするとともに、高砂市の水
 源である加古川流域(杉原川)の水
 かん養機能の向上に寄与することも期
 待されています。

新春を迎えて

一般社団法人 兵庫県林業会議会長

石川憲幸



新年明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、政治経済社会が大きく変動しました。特に令和の米騒動やクマ被害、水害や大規模な山火事なども発生し、地球温暖化の影響が身近に迫っていると感じられました。

温暖化による気候変動を防止するため、COP30ではトランプ米大統領のパリ協定離脱宣言にもかかわらず、気候変動適応資金の増額など190カ国以上の合意がなされました。

森林・林業・木材関係では、災害に強い森づくり推進大会や県のシンポジウム開催を踏まえ、県独自の県民緑税条例の5回目の延長をご承認いただくことができました。

また、大阪・関西万博ではギネス登録された大屋根リングをはじめパビリオンやトイレ・ベンチに至るまで会場内で多くの木材利用事例が見られ、木材の復権を感じました。

今年は県の農林水産ビジョンや木材利用指針の見直し、県庁舎建替の検討が具体化されます。また、今後も大雨の激化や頻発化が予想されることから、『災害に強い森づくり』次期対策のさらなる取組強化が期待されます。

国では森林・林業基本計画や「温暖化効果ガス排出量算定・報告・公表制度(SHK制度)」の改正が予定されており、地方公共団体を含む排出事業者は排出量から木材利用による炭素蓄積変化量の控除が可能になることから、県内での木材利用の促進が期待されます。

森林は、国土や県土の3分の2を占め、樹木が大気中の二酸化炭素を吸収し、立木や木材として固定するとともに、バイオマス燃料として化石燃料の代替えを行う極めて重要な機能があります。地球温暖化防止に貢献するだけでなく、人間をはじめ多くの生物の命の源となっています。われわれ森林林業に携わる者は、現在の森林資源を将来にわたり持続可能なものとして次代につなぐ使命を持っています。

森林資源の循環利用を促進するため、林業の収益性を改善する素材生産コストや造林保育費用の縮減、獣害対策の徹底など、県が公表した『低コスト普及モデル』の具体化に向けて関係者の一層の奮闘と創意工夫を期待するところです。

今年は暦の上では、「丙午（ひのえうま）」です。情熱と行動力で突き進み、燃え盛るようなエネルギーで道を切り開く年とされています。困難な課題が解決できる暦どおりの素晴らしい年になりますよう、皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和8年新春メッセージ

次代を拓く 兵庫の力

兵庫県知事 齋藤元彦



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、阪神・淡路大震災から30年、終戦から80年という大きな節目を迎え、過去を振り返り、未来への責任を改めて心に刻む、意義深い一年となりました。

令和8年は午年。力強く駆け抜ける「行動力」と「挑戦」を象徴する年であり、未来に向けた兵庫づくりを力強く進めてまいります。

第1は、若者・Z世代へのさらなる支援です。県立大学授業料無償化等の教育費負担の軽減、県立学校の教育環境の充実、海外留学支援、不登校やケアリーパー等の課題を抱える若者への支援など、一人一人が自らの夢や目標に向かって、力を発揮できる環境を整えます。

第2は、活力あふれる兵庫の創出です。フィールドパビリオンなどの万博のレガシーを活かした交流人口の拡大や、スポーツ・芸術文化の振興、農林水産業や地場産業への支援など、地域の魅力を高め、活力ある兵庫を築いていきます。

第3は、安全安心な暮らしを支える基盤の強化です。南海トラフ地震などの大規模災害に備え、防災力を高めるとともに、上下水道の老朽化対策、特殊詐欺被害対策、ツキノワグマ対策などの日常の安全を守る取組を強化していきます。

森林関係では、県民緑税の課税期間を令和8年度から5年間延長し、引き続き災害に強い森づくりを進めるとともに、ひょうご農林機構の分収林事業を新たな森林管理スキームに移行させることで、森林が持つ水源かん養をはじめ、土砂流出防止や地球温暖化防止、木材供給などの多面的機能を適切に発揮させ、多様で健全な森林を次の世代に繋いでいきます。

未来を見据え、県民の皆様とともに新しい時代を切り拓いていく決意です。どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和7年 秋の褒章受章者



黄綬褒章受章

川辺郡猪名川町 仲 守 氏

主なご功績

昭和57年から原木しいたけ生産に従事され、ハウスで育てる周年栽培による経営の安定化や、直売等による流通コストの削減に取り組まれました。併せて、観光しいたけ園の運営を通じて地域振興と雇用創出にも貢献されました。また、北摂原木しいたけ振興協議会会長として15年間、PR活動を推進され、「北摂産原木しいたけ」の認知度向上に寄与されました。現在も理事として後継者育成と協議会発展に尽力されています。

令和7年度 兵庫県林業賞受賞者

兵庫県林務課

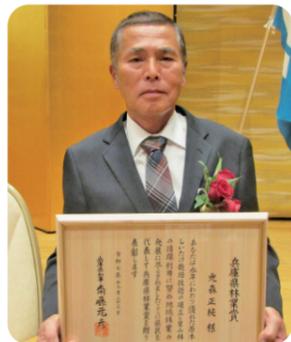


兵庫県林業賞

姫路市 山田 尚弘 氏

主なご功績

「林業経営の多角化の実践と森林資源を生かした地域林業への貢献」
平成6年から家業の林業に携わり、所有山林の経営が主であった自伐型から受託型林業経営への転換により集約化施業を推進、さらに法人化や人材育成に取り組まれ、県下でも最大規模の林業事業体へと成長させられました。また、木質バイオマス発電所運営に携わるなど、余すところない木材利用を通じ、地域林業の振興に貢献されました。



兵庫県林業賞

佐用郡佐用町 光森 正純 氏

主なご功績

「優れた原木しいたけの生産技術の確立と里山林の循環利用への貢献」
昭和55年から原木しいたけ生産に従事、高温でも発生する種菌の採用やほだ木の浸水時間の調整等により通年生産技術を確立されました。赤佐地域きのこ生産振興会では長年役員を担い、会員の生産技術の向上に貢献されました。また、地域の里山林から自ら原木を調達することにより、森林資源の循環利用を通じて公益的機能の維持向上に貢献されました。



兵庫県林業賞

丹波市 杉本 昌義 氏

主なご功績

「高度な素材生産技術と提案型集約化施業による地域林業への貢献」
昭和53年から素材生産に従事され、長年架線集材による効率的な素材生産に取り組まれました。また、他の林業事業体と連携した提案型集約化施業により、丹波地域の原木の安定供給に貢献されました。さらに、県指導林家として、架線技術等の指導や学校での出前講座を通じ、次世代への技術継承と森林林業の意識醸成にも貢献されました。

令和7年度ひょうご森づくり活動賞inひょうご里山フェスタ2025

ひょうご里山フェスタ2025実行委員会（兵庫県、たつの市、公益社団法人兵庫県緑化推進協会 外）の主催で、TOYO TIREグループ環境保護基金から支援をいただき「ひょうご里山フェスタ2025」が開催され、約4,100名の来場者で賑わいました。

- 1 日 時：令和7年10月12日（日） 9時30分～15時
- 2 場 所：中川原公園（たつの市龍野町富永1311-2）
- 3 開催テーマ：赤とんぼ舞う未来へつなぐ里山づくり

式典では、県警音楽隊のプロローグ演奏の後、林業・緑化関係表彰や、森林ボランティア活動報告、たつの市立菅田小学校緑の少年団による宣誓、岡山県南東部から西播磨地域だけに分布する常緑性の広葉樹「コヤスノキ」の記念植樹がありました。

また、龍野東中学校吹奏楽部と県警音楽隊の吹奏楽コラボ演奏や、ユースサポーターによる里山イベントなどのステージイベントの他、森林・林業関係団体や森林ボランティア団体など49の展示・PRブースが展覧されました。

公益社団法人兵庫県緑化推進協会では、森林整備などの森づくり活動を通じ、県民総参加の森づくりに貢献された模範的な団体に対し「ひょうご森づくり活動賞」をお贈りしています。このたび、ひょうご里山フェスタ2025において、兵庫県副知事 服部洋平 様から次の方々に表彰楯が贈られました。



菅田小学校緑の少年団による宣誓



森林ボランティア活動報告



「コヤスノキ」の記念植樹

令和7年度ひょうご森づくり活動賞（森林ボランティア部門） ヤッホの森湿地を育む会（たつの市）



主なご功績

たつの市の「ヤッホの森湿地を育む会」様は、たつの市揖保川町黍田に位置し、江戸時代の水田跡である「ヤッホの森湿地」の貴重な自然と生態系を保護し後世に引き継ぐために、継続的な保全活動に取り組むとともに、その資源を活用して子どもたちや県民等の「環境学習の場」や「リフレッシュの場」として活用されるよう努めておられます。

【活動内容】

- 1 生育休止・休眠期に湿地内浸入植物の伐採
- 2 湿地の調査・観察のため木道や飛石状観察道の設置
- 3 希少動植物の位置、種類、概数などの調査
- 4 登山道や橋等の維持管理
- 5 地元小学校の環境学習の支援

令和7年度ひょうご森づくり活動賞（企業の森づくり部門） 株式会社日本海水（赤穂市）



主なご功績

赤穂市の「株式会社日本海水」様は、宍粟市山崎町にある県立国見の森公園を「日本海水の森」と名付け、森林が有する公的機能を維持・増進させることを目的に、森林整備・保全作業や地球環境に貢献する森づくり活動に取り組まれ、県民総参加の森づくり活動に対して良好な効果をもたらしていただいております。

【活動内容】

- 1 植樹調査、下草刈り、遊歩道整備等の森林整備活動
- 2 社員の環境意識向上やCSR活動の場づくり環境教育

（公益社団法人 兵庫県緑化推進協会）

新たな指導林家・青年林業士の紹介

兵庫県林務課

令和7年10月に認定された新たな指導林家・青年林業士を紹介します。



指導林家 小笹 正等 氏
佐用郡佐用町在住 46歳

小笹氏は、平成15年に所有林を継承、県外林業事業体で技術を習得された後、平成28年に地元の土木建築業に入社し、林業部門を創設され、森林経営計画による搬出間伐を推進されています。若手林業従事者の育成や技術向上にも尽力され、地域をリードする林業指導者として期待されています。



青年林業士 辻 徳 人 氏
丹波篠山市在住 40歳
株式会社デカンショ林業 代表取締役

辻氏は、民間企業勤務後、地元の課題解決のため林業事業体を設立し、提案型集約化施業により搬出間伐を推進されています。また、令和7年設立の（一社）丹波森林LSCに参画し、丹波産材の流通網を広げるローカルサプライチェーンの一翼を担われています。地域林業の指導者として今後の活躍が期待されています。

令和7年度「林業労働賞」受賞者及び「兵庫県林業士」の紹介 兵庫県林務課

令和7年10月12日に、たつの市にて開催された「ひょうご里山フェスタ2025」において、「兵庫県林業労働賞」の受賞式及び「兵庫県林業士」の認定式が行われましたので紹介します。

兵庫県林業労働賞

「兵庫県林業労働賞」は、森林・林業の担い手である林業労働者の組織的・安定的な確保を図るため、林業労働力の確保・育成に功績のあった方を表彰します。

今回表彰された方々については、地域林業の要として信頼も厚く慕われている存在であり、また地域林業の発展に向けて大きく貢献されています。

「林業労働賞」受賞者は、次の5名の方々です。

戸井 博一氏 (しろう森林組合)

主なご功績

労働災害への深い知識を有し、安全管理に熱心に取り組むにつれ、作業仕組みの改善による作業効率化も追求されています。温厚な性格で森林技術員から厚い信頼を得る中心人物として、地域林業の発展に貢献されています。

前田 憲一氏 (しろう森林組合)

主なご功績

労働災害防止に積極的に取り組みつつ、作業の安全確保と仕組み改善による効率向上に努められています。服装や機械の整備も徹底し、振動障害の防止に努め、高度な技術で信頼を得て、地域の林業発展に貢献されています。

中川 憲悟氏 (北但西部森林組合)

主なご功績

県内で25年以上にわたり林業に従事し、安全衛生研修に積極的に参加し、安全管理の徹底に尽力されています。毎朝のKYミーティングでは危険要因を洗い出し、終業時にはヒヤリハット事例を共有して原因究明を行うなど、事故防止に向けた仕組みを率先して実施されています。

和藤 正憲氏 (豊岡コウノトリ森林組合)

主なご功績

各種研修会へは積極的に参加して技術・知識の吸収に努める傍ら、実務においては作業前のミーティングを欠かさず行い、細かな注意点の確認を徹底されています。安全管理面では、リスクアセスメントKY活動表を用いたリスク軽減の協議に加え、他社の事例を導入するなど安全意識のさらなる向上に尽力されています。

照喜納 広明氏 (丹波市森林組合)

主なご功績

森林組合主催の研修には全て参加して常に安全に心がけています。林業作業開始前では、ミーティング、指差呼称を徹底し、常に防護服を着用し、ゼロ災害に努められています。作業は迅速・丁寧で作業員からの信頼も厚く、若手作業員の育成も熱心に取り組まれています。



ひょうご里山フェスタでの授賞式

左から 前田氏、中川氏、服部副知事、戸井氏。
(和藤氏と照喜納氏は欠席)

兵庫県林業士

「兵庫県林業士」は、県内の林業従事者のうち、森林整備や林業活動の経験が長く、優れた知識や技術を持ち、林業労働者の模範となる方が事業体より推薦され、知事から認定されるものです。

「兵庫県林業士」に認定された方は、次の4名の方々です。

下村 明 (株式会社 グリーン興産)

片芝 誠 (養父市森林組合)

谷口 成人 (養父市森林組合)

高橋 範行 (丹波市森林組合)

今回認定された方については、地域の林業従事者の中核的存在として、引き続きご活躍いただけることをお祈りしています。



ひょうご里山フェスタでの認定式

左から 下村氏、片芝氏、谷口氏、服部副知事、高橋氏

(林務課 林政調整班 本間 優一)

たかさごの森づくり活動「たかたか連携」 森から始まる共生の約束

～森林環境譲与税を活用した市町間連携～

ひょうご森づくりサポートセンター 山田 裕司



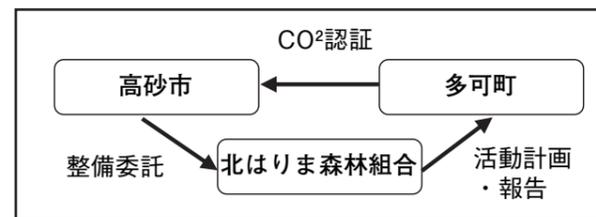
1. はじめに

森林環境譲与税を活用した市町間連携が、兵庫県内では初めて、高砂市と多可町との間で始まりました。

高砂市では、2050年ゼロカーボンシティに向けた取り組みの一環として、高砂市の水源にもなっている加古川流域上流の多可町内の森林において、高砂市の譲与税を活用し、たかさごの森を確保し、森づくり活動を実施していくことになりました。

2. たかたか連携のスキーム

連携は、北はりま森林組合を加えた三者で実施していくこととし、高砂市が森づくり活動の経費等を負担、多可町は森づくりによるCO²吸収量の認証を行う、北はりま森林組合が活動の様々な調整を行うというものです。



3. 協定式及び植樹イベント

令和7年10月25日(土)に、高砂市長都倉達殊氏、多可町長吉田一四氏、北はりま森林組合長古谷古家康吉氏の三者により協定締結式が行われました。



写真-1 参加者全員で記念撮影



写真-2 高砂市の親子による植樹会

三者による植樹式の後、高砂市の小学生親子を招いて植樹会が行われました。植樹は、高砂市の木である



写真-3 クリの苗木を植樹

松(アカマツ)、多可町の木であるケヤキ、その他に、クリやコナラなど多様な樹種が植樹されました。

4. 今後の展開

今後も協定書に基づき、下刈り等の森づくり活動を実施していくこととしており、高砂市では、来年度も子供たちに活動に参加できるようなイベントを計画しているところです。

また、高砂市と多可町では、この森づくりによる連携をきっかけとし、多方面にわたる市町間連携を検討しています。多可町で進めているクアオルト健康ウォーキングへの高砂市民の誘導や、多可町産木材の高砂市公共施設への活用など、多可町の多くの森林サービスが高砂市民にも提供できるような仕組みが提案されています。

(ひょうご森づくりサポートセンター 山田裕司)

スギ心去り平角の乾燥前における重量選別の有効性の検討

兵庫県立農林水産技術総合センター 森林林業技術センター 藤本 千恵

1. はじめに

人工林の高齢化に伴って大径材の生産が増加しています。大径材の新たな利用方法として、1本の丸太から2丁の平角を製材する心去り平角(図1)が注目されていますが、その乾燥手法は確立されていません。図1に示した平角の製材方法のうち、丸太の半径方向を梁幅とし、髄を除いて2丁に製材したものを兵庫県では左右心去り平角(図1中央)と呼称しており、これを今回の試験対象としました。

乾燥前に重量等によって複数のグループに仕分け、別々に乾燥すると、乾燥前にある程度含水率が揃うことから乾燥後の仕上がり含水率のばらつきを小さくする効果があります¹⁾。他方で、左右心去り平角には横断面の中央付近に、短辺に平行な内部割れが生じることがあり、この内部割れによってせん断破壊が発生し、曲げ強度が低下することが確認されています²⁾。

そこで本試験では、左右心去り平角の乾燥前における重量選別の有効性について、乾燥度合い(含水率)に加えて内部割れや強度についても検討しました。

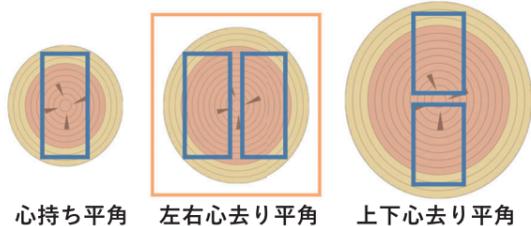


図1 心持ち平角および心去り平角の模式図

2. 実験方法

試験体には、製材寸法225×135×4,000mmの兵庫県産スギ心去り平角20本を使用しました。

まず、試験体の乾燥前の重量を体積で除し、生材密度を算出しました。生材密度の低い10本をグループ①、高い10本をグループ②に分けました。乾燥前に末口側から約2cmの長さで試験片を採取し(図2)、20℃65%RHで調湿した後、気乾密度を測定しました。

グループ分け後、グループ①は20.3日間、グループ②は33.3日間、蒸気加熱式乾燥機(SKD40HPT、新柴設備)を用いて人工乾燥を行いました。目標含水率は15%以下としました。乾燥スケジュールは、グループ①、②を乾球温度90℃で8時間の初期蒸煮処理の後、乾球温度90℃乾湿球温度差4~16℃で470時間乾燥し、乾球温度90℃乾湿球温度差5℃で

8時間の調湿処理を行いました。その後、グループ①を取り出し、グループ②を再び乾球温度90℃で6時間の蒸煮処理の後、乾球温度90℃乾湿球温度差16℃で298時間乾燥し、乾球温度90℃乾湿球温度差5℃で8時間の調湿処理を行いました。今回は表面割れの発生は少ないと思われる心去り平角を用いたことから、一般に心持ち材に使用される高温セット処理は実施しませんでした。

人工乾燥後に、両端から300mm以上内側で約20mmの長さの試験片を採取し(図2)、含水率と内部割れ長さを測定しました。試験片の含水率と試験体の重量から、試験体の乾燥前後の含水率を算出しました。内部割れは試験片の断面に見られた割れの長さを合計し、内部割れ総長さとした。

その後、残りの試験体を製品寸法である210×120×3,200mmに仕上げ、スパン2,940mm、荷重点間距離1,050mmで4点曲げ試験を実施しました。曲げ試験後の試験体から、両端50mm内側で節を避けて採取した試験片から含水率を求め、ASTMD1990-07に従って、曲げヤング係数と曲げ強さを含水率15%時の値に調整しました。

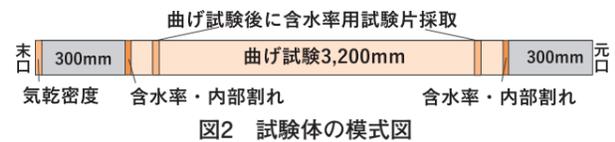


図2 試験体の模式図

3. 結果と考察

今回は生材密度648kg/m³が基準となつて半数に分かれました。図3のとおり、乾燥前の含水率と生材密度には、強い正の相関(相関係数:0.84)が見られ、生材密度によって乾燥前の含水率を高いものと低いものに分けることができました。図4のとおり、乾燥前の含水率はグループ①が114.1±18.8%、グループ②が141.4±29.5%で、グループ間の含水率に有意な差が認められました(Student's t-test, p<0.05)。乾燥後の含水率は、グループ①が11.6±3.2%、グループ②が8.7±0.9%となり、ほとんどの試験体を目標含水率の15%以下に乾燥させることができました。グループ②は試験体間の含水率のばらつきを抑えて乾燥することができたものの、乾燥時間が長かったことから過乾燥になった材が発生しました。

写真1のとおり、内部割れの状況はグループ①では小さな割れが数本で見られたのみでしたが、グループ②では、幅方向に横断するような大きな内部割れが発生した材が数本で見られました。図5の含水

率と内部割れ総長さの関係において、含水率10%以下の材で内部割れの発生が確認されたことから、過乾燥が内部割れ発生の一因である可能性が示唆されました。

試験体の強度について図6に示します。たわみにくさを表す曲げヤング係数は、グループ①5.0±1.0kN/mm²、グループ②7.2±1.4kN/mm²となり、グループ②の方が有意に大きい(Student's t-test, p<0.001)という結果になりました。壊れにくさを表す曲げ強さについても、グループ①が29.3±7.0N/mm²、グループ②が37.3±5.7N/mm²で、グループ②の方が有意に大きい(Student's t-test, p<0.05)という結果でした。JASで規定される基準強度を満たさなかったグループ①の2本は、いずれも節で破壊しており、内部割れによるせん断破壊をした材はありませんでした。

グループ間の強度に差が見られた理由を調べるため、重量選別(生材密度)との関係を確認しました。生材密度と気乾密度には強い正の相関(相関係数:0.60)が見られ、気乾密度と曲げヤング係数にも強い正の相関(相関係数:0.79)が見られました。このため、図7に示すように生材密度と曲げヤング係数にも中程度の正の相関(0.48)が確認されました。これらのことから、生材密度による選別がグループ間の強度の差に影響した可能性が示唆されました。

4. まとめ

重量選別(生材密度)によって、試験体間の含水率のばらつきを抑えて乾燥することができましたが、内部割れの発生を抑えることはできませんでした。

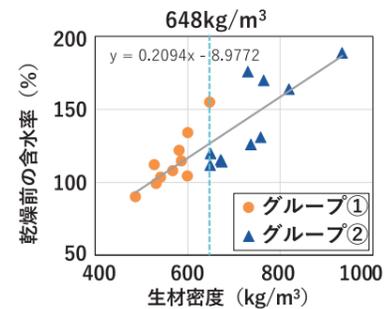


図3 生材密度と乾燥前の含水率の関係

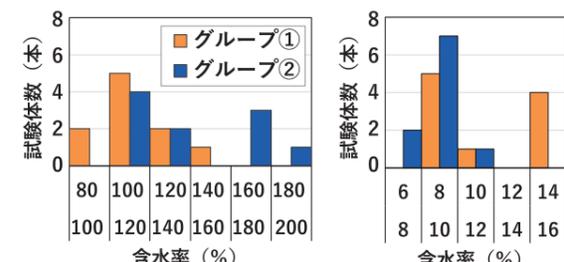


図4 乾燥前(左)と乾燥後(右)の含水率

また、重量選別に使用した生材密度と曲げヤング係数には正の相関がみられ、グループ間で強度の差が確認されました。低含水率材を平角、高含水率材を板材のように使用用途を分ける場合、重量のみで選別すると、強度が必要な平角に低強度の材が集まる可能性があり、注意が必要であることが分かりました。

文献

- 1) 信田聡, 河崎弥生: 木材科学講座7 木材の乾燥II 応用編, 海青社, p12, 2020
- 2) 渡辺憲, 長尾博文, 松村ゆかり, 大谷直希: スギ心去り平角の内部割れと強度低下を防ぐための適切な乾燥方法の開発, 木材工業80(5), 174-179, 2025



写真1 内部割れの状況

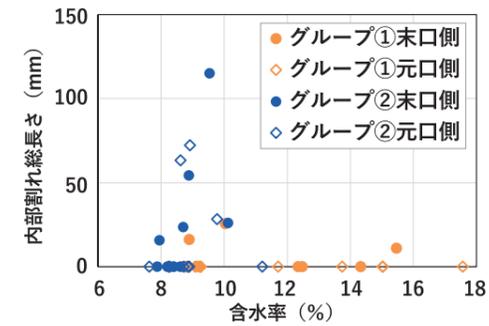


図5 含水率と内部割れ総長さの関係

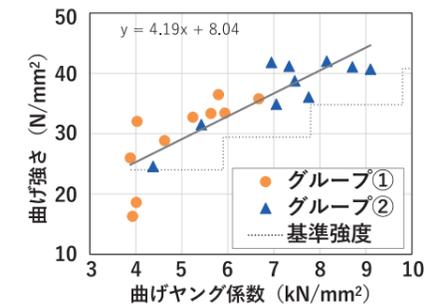


図6 曲げヤング係数と曲げ強さの関係

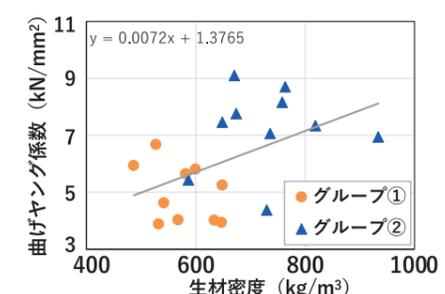


図7 生材密度と曲げヤング係数の関係

普及だより

「丹波の里山づくり促進事業」による地域の里山利用活性化の取り組み

丹波県民局 丹波農林振興事務所

1 はじめに

丹波地域では、平成30年度から丹波県民局、丹波篠山市、丹波市、(公財)兵庫丹波の森協会の4者により丹波の里山づくり促進事業実行委員会を設立し、地域の里山づくり活動を推進しています。今回の普及だよりでは、実行委員会で開催している事業の推移と現在の取り組みについて紹介します。

2 事業の推移

実行委員会の設立当初は、地域の人たちによる森林整備団体(10団体)の里山活動支援やフォーラムの開催、体験型の里山育成研修会の開催、情報誌『森のかわら版』の発行、木の駅プロジェクト活動支援等を行ってきました。一定の効果は得られたものの、活動者の高齢化や新たな担い手の確保不足、世代交代による里山への関心の薄れ等により、地域の人たち主体の自発的な活動は先細りの傾向が見られるようになってきました。

3 現在の取り組み

そこで、森林整備団体への支援は継続しつつ、地域を活性化するために次の取り組みを行っています。
 (1) 丹波地域および都市部への情報発信
 ① WEBサイト『森機応変』による情報発信
 丹波の里山で遊びたい、丹波産の木材を使いたい、森の所有者を探したいといった森林に関する相談やイベントなどの最新情報を発信するWEBサイト『森機応変』を令和5年3月より運営しています。情報と相談が集まる場となり、地域内外の人や企業との繋がりをつくっています。



WEBサイト『森機応変』

② “丹波の森エキスポ2026～森のプロに会える！体験できる！～”の開催

林業や木材加工など丹波の森づくりのプロが一堂に集まり、森の仕事人たちから話を聞き、実演を見ることができる博覧会(エキスポ)を開催します。地域産材の活用についての講演を行うほか、木工等のワークショップや小型重機の試乗体験、木の雑貨やジビエ料理の販売などを行います。また、各ブースでは、それぞれのプロが森林整備や山林の活用、住まいや古民家再生などの相談に応じる窓口も設けます。WEBサイト『森機応変』のリアル版として、森に親しみたいご家族連れから仕事に繋がりたい事業者様まで、幅広くお楽しみいただける企画となっています。

日時：2026年1月31日(土) 11時～16時
 場所：ユニトピアささやま 芝生公園(入場無料)
 (雨天時：施設内にあるフォレストプラザ)



(2) 里山育成調査研究

SDGsやネイチャーポジティブを推進するため、多様な森林を整備することによる動植物層の変化を把握して森林形態毎の管理指針を明確にすることを目的に、(公財)兵庫丹波の森協会において調査研究を開始しました。令和7年度はヒノキ主体の針葉樹林を間伐により針広混交林へ誘導していく際の下層植生や動物、昆虫などへの影響について調査区を設定しました。

4 今後の取り組み

WEBサイト『森機応変』による情報発信をより充実させ、丹波地域と都市部の人や企業との繋がりを広げていきたいと考えています。また、里山育成調査研究では、里山林など様々な森林に調査地を広げ、令和10年度を目途に管理指針の策定を目指します。(森林課 上村公浩)

県産広葉樹苗木生産者育成研修で、広葉樹苗木生産を目指す担い手を育成
 兵庫県林業種苗協同組合

新しい苗木生産技術を活用して、その地域にあった優良な広葉樹苗木を養成する「県産広葉樹苗木生産者」の育成を図るため、県林業種苗協同組合が、県から委託を受けて、県産広葉樹の苗木生産者の育成研修を実施しました。専門的な育苗技術を身に付けていただく専門コースでは、北部コース(10月10日)、南部コース(10月15日)の2日間に県立森林大学校や生産者の苗圃で開催し、延べ19名が参加しました。

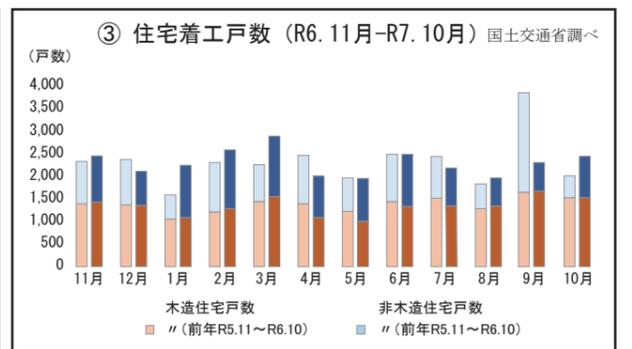
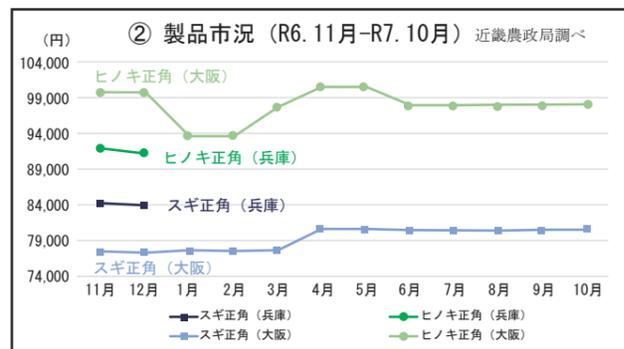
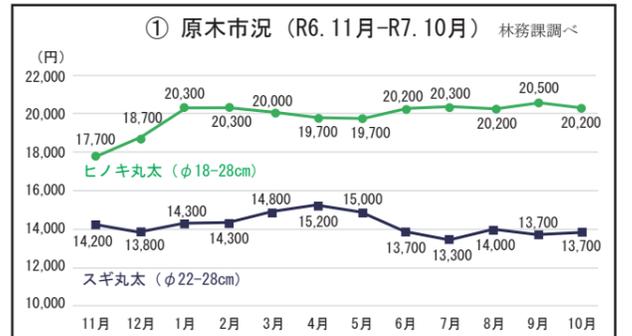


講義・実習の様子

主に、広葉樹種子の採種・生産管理や広葉樹苗木の育苗方法について学び、コンテナ培地に小さなコナラやケヤキの毛苗を移植する作業や育苗箱にシバグリの播種、播種床に線状に細い溝を掘りドングリを植え付ける実習を行いました。また、専門コースのほか、県産広葉樹苗木生産に関心を持っていただくため、1日だけの公開講座も併せて開催しました。公開講座は、10月3日に県立森林大学校で行い、19名が参加しています。公開講座では、当組合の池本理事長らが講師となって、「広葉樹コンテナ苗木の生産・管理」について具体的に育苗方法を示しながら講義を行いました。また、そのほか、「広葉樹苗木生産の現状と課題」や「広葉樹の樹種特性」、「シカ不嗜好性広葉樹の特性と活用」のほか、「広葉樹の利活用」についても学んでいただきました。この研修は今年度で終了です。令和3年度から専門コース112名、公開講座123名が受講されました。兵庫の広葉樹の森づくりに不可欠な担い手になってもらいたいと思います。(専務理事 岩村 裕)

＜兵庫県内の原木市況・製品市況・住宅着工戸数＞

・原木は、例年に比べ出荷量が少ないが、建築用材需要の低迷もあって、価格は横ばいとなった。チップ用材の需要が旺盛な中、例年冬場は出材が減る傾向にあることから、原木の相場は底堅く推移している。
 ・製品は、大阪を中心に構造材の荷動きが回復しているとの情報もあるが、6月以降価格は横ばいで推移している。
 ・住宅着工戸数は、4号特例縮小の影響による建築確認申請の遅延が続いているとの声も聞かれるが、8月以降は増加傾向にある。



※木材流通統計調査(近畿農政局調べ製品価格)について、令和7年1月から兵庫県が調査対象外となったことから、以降の兵庫県製材品価格についての記載はありません。

兵庫県森林ボランティア・緑化推進大会を開催しました ～設立20周年を迎え、森林ボランティア活動のさらなる活性化へ～

兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会事務局 (兵庫県農林水産部 治山課)

兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会は設立20周年を迎え、県内の森林ボランティア活動の活性化と緑化推進のPRを目的に、「兵庫県森林ボランティア・緑化推進大会」を令和7年12月14日(日)兵庫県立兵庫津ミュージアムにて開催しました。当日は、県内で森林ボランティア活動に取り組む方々など62名が参加しました。



主催者挨拶

式典では、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会の永井唯晴会長、公益社団法人兵庫県緑化推進協会の守本真一理事長からご挨拶がありました。その後、緑化作品コンクールの表彰式が行われ、緑化ポスターおよび標語の一幕に選ばれ



服部名誉教授 基調講演

た6名に表彰状が授与されました。

また、兵庫県立大学の服部保名誉教授による「市民参加によるこれからの里山林整備」と題した講演では、森林や地域特性に応じた整備の方向性が提言され、参加者は熱心に耳を傾けていました。



グループワーク

午後は、4班に分かれて森林ボランティア活動における様々な課題についてグループワーク形式で検討し、活発な議論を通して多くのアイデアが出されました。グループワーク後、各班の検討結果が発表され、最後に服部名誉教授から講評をいただきました。

閉会にあたり、兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会の高田誠一郎副会長より、県内森林ボランティア団体のさらなる活性化への期待を込めた言葉で大会は幕を閉じました。

林業架線作業技術研修について

近年は、素材の生産・搬出は作業道の開設を基本にした、車両系によるものが中心になっていますが、急峻な地形等では架線による集材も必要になってきます。

そのため、兵庫県営林緑化労働基金では毎年度林業架線作業技術研修を実施しています。以下では、本年度実施した内容について紹介します。

- 1 研修期間 令和7年10月～11月の内11日間
- 2 養成人数 1名(林業架線作業主任者免許試験合格)
- 3 研修場所等
 - ◇中はりま森林組合 「機械集材装置の運転の業務」特別教育を受講
 - ◇川戸実習舎 (県立森林大学校の「林業架線の実習」に参加)
 - ◇宍粟市内の会議室 「林業架線作業主任者免許」取得のための講習
- 4 受講料 無料
- 5 研修の内容
 - ◇「機械集材装置の運転の業務」特別教育 機械集材装置等の知識、ワイヤーロープの取扱い実習、集材機の運転実習



主索の引き伸ばし



集材機運転体験

- ◇「林業架線の実習」 架設、点検、集運材作業、解体・撤去、
- ◇「林業架線作業主任者免許」講習 講義、過去問演習

近年は本研修も受講希望者が減少していて、今回のように免許取得を目標にした内容で実施したのは4年ぶりになります。

来年度以降も多くの受講希望者が見込まれるよう、一部内容を見直すなどして実施する予定ですので、関心のある方はお問い合わせください。

お問合せ 公益財団法人 兵庫県営林緑化労働基金
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 5丁目5番18
TEL: 078-361-8010 FAX: 078-381-9116
E-mail: zaidan@hyo-eirin.or.jp



山火事注意!



県では、山火事防止の啓発活動を行っています



山火事の原因の多くは、たき火やたばこのポイ捨てなど、火の取扱いの不注意によるものです。貴重な森林を守るため、一人ひとりが気を付けましょう!

兵庫県 農林水産部 治山課



令和5年3月 赤穂市大津

編集後記

あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

昨年の流行語大賞は「働いて働いて働いて働いて働いてまいます」でしたが、トップ10には「二季」という言葉もありました。過ごしやすい春と秋がだんだん短くなっているように感じるのは、どうも私だけではないようです。これも、地球温暖化の影響なのでしょう。各地で記録的な高温、豪雪、豪雨災害、大規模な山火事の発生、カキの大量死など、地球温暖化と思われる影響が身近に迫ってきているように感じます。

さて、今年はどうなるのでしょうか。先の見えない混んとした昨年。皆様にとって、平穏で、明るい良い年となることをお祈りします。

森林・林業にかかわる者の一人として、あらためて適正な森林整備の推進やSDGsに取り組んで参りたいと思います。また、皆さんに読んでいただき「あの記事は参考になったよ」と、言っていただけるよう「働いて働いて働いて働いて働いてまいます」。

なお、これまでの「兵庫の林業」のバックナンバーは林業会議のホームページに掲載しています。是非、ホームページもご覧ください。

(編集事務局)
<https://hyogo-ringyoukaigi.com/>



土と水と緑の技術で社会に貢献します。

コンサルティング事業	インフラ整備・メンテナンス	研究開発
斜面防災 治山・林道 河川・砂防・海岸 地盤環境 環境・緑化	地すべり防止工事 斜面・のり面工事 インフラメンテナンス	InSAR BIM/CIM シミュレーション技術 空間情報技術

国土防災技術株式会社

神戸支店
神戸市中央区浜辺通2丁目1番30号(三宮国際ビル)
TEL: 078-221-2213

但馬事業所
養父市八鹿町高柳字岸の下137番地の4
TEL: 079-662-7108

▼会社HP



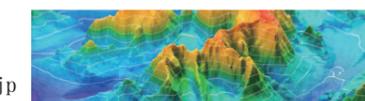
“治山・林道測量”

は経験と実績のある

株式会社 石原測量コンサルタント

〒671-2542
兵庫県宍粟市山崎町船元250-1
Tel (0790) 63-1377
FAX (0790) 63-1398
E-Mail ishishoku-y@wine.ocn.ne.jp

国土交通省登録第24891号
県知事許可(般-2)第461481号



緑の募金へのご協力をお願いいたします

いつも緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます。
緑の募金は、森林ボランティア活動への支援や、子どもたちの環境学習などに活用しています。
ご協力いただける場合は、次の方法をお願いいたします。

●賛助会員入会のご案内●
私たちの活動を応援して下さる賛助会員を募集しています。
入会金は不要です。
会員としてご支援いただきますようお願いいたします。(1口10,000円/年)

◇お問い合わせは◇ 

公益社団法人 兵庫県緑化推進協会
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
TEL 078-341-4070 FAX 078-341-4071
HP <https://hyogo-green.net/>

ご寄附の方法

1 金融機関からのお振込み
①郵便局(手数料不要)
専用の払込取扱票をお送りしますので、当協会にご一報ください。
②銀行(手数料必要)
口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所
普通 3198438 公益社団法人兵庫県緑化推進協会
募金のページQRコード 

2 キャッシュレス決済(手数料不要)
ソフトバンクの「つながる募金」からキャッシュレスでご協力いただけます。

Husqvarna

■540XPMarkⅢ ■T540XPMarkⅢ

■質量：4.1kg ■質量：3.8kg
■排気量：39.1cm³ ■排気量：39.1cm³
■出力：2.8KW ■出力：2.8KW

本当の価値がわかる方へ！
最高のパワーウェイトバランスで耐久性も抜群。
生産性をさらに高めるチェーンソー
革新的な技術を融合し、これまで以上の加速とトルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。
新登場540XPMarkⅢ、ぜひお試しください。

愛林興業株式会社
本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181(番代)
神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番
但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林整備センター Forest Management Center 

水源林造成事業 神戸水源林整備事務所 TEL(078)362-5800
兵庫県水源林造林協議会 TEL(078)351-3341
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通 5-5-18
(兵庫県林業会館5階)

●国民生活に不可欠な水の安定供給や国民の生命・財産を守るため
奥地水源地域で水を育む森林を造成しています。
●奥地水源地域の保安林の、土地所有者自身による森林整備が困難な木の生えていない荒れ地で、**公的セーフティネット**として森林を造成しています。
●森林を再生し、水源かん養や土砂流出・崩壊の防止を通じて「**緑のダム**」としての機能を確保しています。

詳しくはWebサイトをご覧ください

水源地域で公益的機能が発揮される森林を育成しています
緑をはぐくみ 水をつくる

あなたの町の森づくり・木材利用・木育をサポートします
ひょうご森づくりサポートセンター

森林環境譲与税や森林経営管理法に関すること、
県産材や地域産材の利活用に関することなど、
何でもお気軽にご相談下さい。

神戸市中央区北長狭通 5-5-18 ひょうご森づくりサポートセンター URL：<https://www.hyogoforest.or.jp/sc/>
森林整備：☎078-599-7461 (ひょうご森林林業協同組合連合会内)・木材利用等：☎078-371-0607 (兵庫県木材業協同組合連合会内)

災害のない安全で安心な社会

●治山、林道、造林事業の推進
●山地防災・土砂災害対策計画

一般社団法人 兵庫県治山林道協会
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL:078-371-0210 FAX:078-371-6632
HP





士・木・緑・そして人
とりもどそう 人にやさしい環境

株式会社 グリーン興産
〒671-4141 兵庫県宍粟市一宮町東河内1003
TEL 0790 (72) 1553 FAX 0790 (72) 2327

GREENKOUSAN

営業品目
森林部門・・・素材生産・森林整備・危険木伐採
土木部門・・・公共土木・一般土木工事
緑化部門・・・公共緑化工事・一般造園工事
建築部門・・・新築・リフォーム・エクステリア工事
E-mail: info@greenkousan.co.jp
URL <http://www.greenkousan.co.jp>

ひょうご木の匠の会
兵庫県産木材の家

私たちは、兵庫県産木材を使い、人と環境に優しい木造住宅を提案し建築します。


ひょうご木の匠



ひょうご木の匠の会 会長 日置尚文(日置建設株)
(事務局) 神戸市中央区北長狭通5-5-18 兵庫県林業会議
<https://hyogo-kinotakumi.net> TEL:078-351-3341

三井化学 グループ エムシー緑化の松枯れ防除剤

松枯れ防止樹幹注入剤 **マツガード®**
マツガードクイック®
ハダニの適用拡大

マツノマダラカミキリ後食防止殺虫剤 **マツガードフラッシュ®**

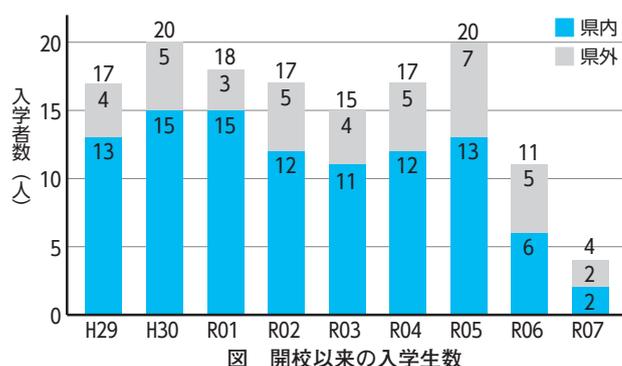
販売元 **正和商事株式会社** 〒541-0045 大阪市中央区道修町1丁目3番4号
TEL 06-6203-4541 FAX 06-6203-4347

兵庫県立森林大学校学生確保について

1 本校の状況

本校は平成29年に創設し、森林林業の即戦力、将来のリーダー、地域貢献する人材の育成を進めています。

令和7年度現在は在校生12名を含め136名が入学し、102名が卒業して民間林業事業体をはじめ木材事業体、林業関係の公務員、進学で活躍しています。



令和5年度までは定員20名に対し約7～10割の入学者がいましたが、令和7年度は1名と学校運営上危機的な状態となりました（その後10月入学生1名あり）。全国的な少子化もあり、令和3年には県立山崎高等学校の県下唯一の林業学科（森林環境科）が森と食科に統合されました。また、全国に林業大学校が28校あり、近隣では京都府（H24）奈良県（R3）、和歌山県（H29）、滋賀県（H31）、三重県（H31）、鳥取県日南町（R1）、令和6年度には香川県の専修学校に林業系のコースが新設されました。

2 学生募集の取組

(1) 広報

メディア（新聞・テレビ・ラジオ・チラシ・ポスター・パンフレット・デジタルサイネージ・県公報・市町広報・雑誌等）、ニューメディア（HP、コラム作成・SNS運用（インスタグラム、Facebook）・SNS広告）、対面での広報に取り組みました。

メディアでは記者発表、チラシポスター等のデザイン刷新（広報専門家の指導を受け）、各市町へ協力依頼し広報誌掲載、駅等でのデジタルサイネージ（神戸市協力）、TV（県広報番組「教えてひょうご」 YouTube配信あり）などを活用しました。

ニューメディアでは、専門家の指導を受けSNSの内容や頻度を刷新し、新規にSNS広告を実施しました。

対面では、学校訪問・交流授業・オープンキャンパス・ハローワーク訪問・若者サポートセンター訪問・移住フェア・宍粟市（横断幕・CATV等）・イベント出店を実施しました。

(2) オープンキャンパス開催と出願者について

令和7年度はオープンキャンパスを4回、地域住民等一般も対象とした「誰でもオープンキャンパス」を3回実施しています。今年度の実施結果として、出願者の約9割がオープンキャンパスに参加し

ています。

オープンキャンパス開催状況

区分	実施月	受験対象者	うち出願者
通常	第1回	5月 ^{*3}	6(3)
	第2回	7月 ^{*3,4}	14(8)
	第3回	8月 ^{*3}	20(6)
	第4回	3月 ^{*3}	^{*3/8開催}
一般公開	第1回	11月 ^{*3}	4(4)
	第2回	12月	^{*12/24開催}
	第3回	2月	^{*2/6開催}

※()書きは高校2年生等を除いたR7受験対象者数

*3 日曜・祝日開催 *4 西播磨県民局と共催

*4 10月入学生を含む

(3) 令和7年度の入学試験の実施状況

令和7年度は入試日程をすべて日曜日とし、既卒者対象に7月入試を実施し、初めて後期（10月）入学生募集も行いました。また、12月と3月は交通の利便性を考慮し試験会場を姫路市内としました。

入学試験実施状況

年	実施月	区分	出願数
R7 (R7.10月入学)	9月	学校推薦、一般・推薦	1名
R7 (R8.4月入学)	7月 ^{*3}	一般・推薦(既卒者)	1名
	10月 ^{*3}	指定校、学校推薦	3名
	12月 ^{*3,4}	一般・推薦	13名
	3月 ^{*3,4}	一般・推薦 (出願は2/22～)	

*1 日曜日開催 *2 会場は姫路市内

現時点で4名の合格者と12月入試で出願者13名となっています。残り3月入試を残すところですが、広報と3回のオープンキャンパスで定員確保を目指します。

4 今後

本校に関心を持ちオープンキャンパスや学校見学に来てもらうことが学生確保につながります。今後HPのリニューアルや、オープンキャンパスに加え学校見学・説明会を随時開催していきます。

平行して講義内容等の改善にも取り組みます。



末尾になりましたが、本校の学生募集に対し各市町や関係機関の皆様のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。